

こども病院の桜はすでに盛りを過ぎて新芽が覗いています。春、新年度。皆さまのお子さんはいかがお過ごしでしょうか。

3歳で入院生活を始めた我が家の娘は、今年から大学生です。病棟での保育士を目指しています。

入学式も終わり、来週オリエンテーションの泊り込み合宿があります。今の悩みは、泊まる時にかつらをどうしようかということです。小さな悩み、大きな悩みそれぞれたくさん持ちながらも、本人も、家族も新たなスタートです。



#### <第130回 ほほえみの会 >

ソーシャルワーカーの城戸さんをはじめ5人の参加でした。

▽ 今回は退院後、時間のたっている方の参加が多く、晩期障害が話題となりました。「身長が伸びない」「学校へ行けない」「自己中心」など、さまざまな悩みが出て、とにかく普通の生活をしてほしい、という話がありました。一方で、病気をしたことで強くなっている部分もある、個人個人の問題は病気の有り無しに関わらず誰でもあることではないか、個性として良い方向に見ていきたい、といった話が出ました。

また、退院した後、医療面は病院で診てくれるが、精神面や社会生活の面ではお母さんを支えてくれる場、相談をする場所がないといった話題も出ました。

退院後、子供が親に暴力を振るうケースや、骨髄移植で兄弟にドナーを求めた場合、説明不足から兄弟間での確執がおきるなど、切実な問題もあるようです。

▽ こども病院でしばらく空席になっていた「ソーシャルワーカー」に、常勤で城戸さんが赴任していただきました。ソーシャルワーカー（社会福祉士）は、体や心に障害のある人たちに援助を行い、社会全体の福祉向上を目指してくれる人です。慢性疾患制度や障害手帳申請など法律関係や、入院中の家族の住まい、各施設の紹介、また退院後の社会への対応などなど幅広い福祉関係の窓口となっていただきます。

L棟2階の地域医療連携室にいるそうですのでお気軽にご相談下さい。

▽ 県立がんセンターが主宰しています「がんの社会学に関する合同研究班」でがん医療に関する小冊子を下記の5冊作成しました。

「医療情報をもっと知りたいとき」

「がんの治療費いくら用意すればいいの？」

「医療費控除の仕組み 申告できる項目や計算方法などの解説」

「在宅で受けられる医療・介護サービス」

「自宅での療養生活の工夫」

小児用ではありませんが、役に立つものも多いと思います。小冊子は城戸さんに預けましたので地域医療連携室にお尋ね下さい。

▽ 県立短大の金城先生によると、いま全国的に小児病棟が減っているそうです。経営効率の悪さが一番の原因のようで、国立大学病院でさえも民営化でなくなる動きがあるようです。このままでは小児医療が大きな危機を迎えます。地域で小児専門病院を確立させる必要があるようです。こども病院も大きな赤字を抱えているそうですが、ここは是非、国政、県政に期待したいと思います。

▽ あさひテレビ「密着静岡こども病院」が5月5日(金)14時から再放送されることになりました。

▽ 今年の総会は7月9日(日)とします。講演の希望などありましたらご連絡下さい。

次回は 5月14日(日) 11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mailアドレス k\_likeda@yahoo.co.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/hohoeminokai/>